

山陰地方以外で初めて発見された四隅突出型墳丘墓を38年ぶりに発掘

## 富山市 杉谷4号墳 現地説明会資料

平成24年8月29日(水) 13:30~15:00

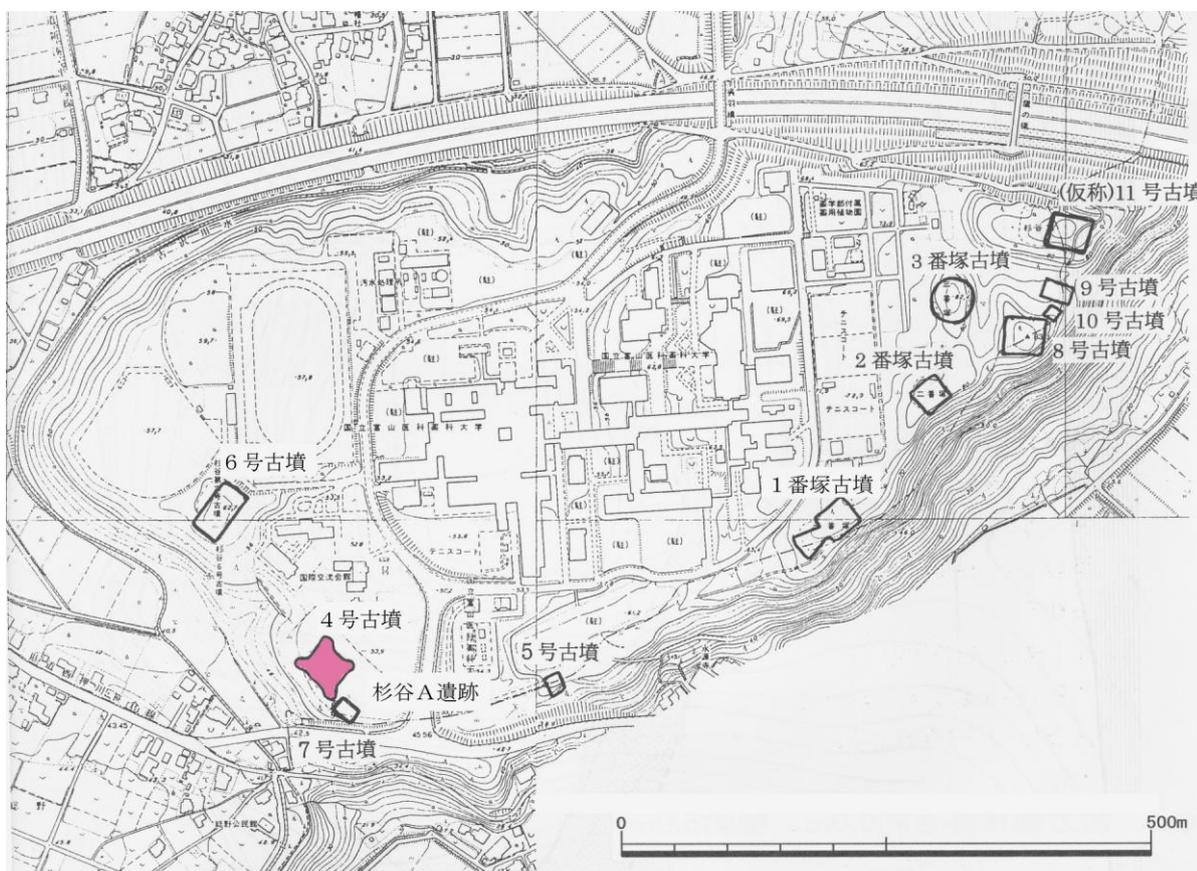
富山大学人文学部考古学研究室

富山大学杉谷キャンパス内にある杉谷古墳群は、四隅突出型墳丘墓の4号墳(4号古墳)や長さ49.5m、幅28mの方墳である6号墳(6号古墳)、そして古墳時代前期の築造と考えられる約56mの前方後方墳である1番塚古墳など11基からなります。

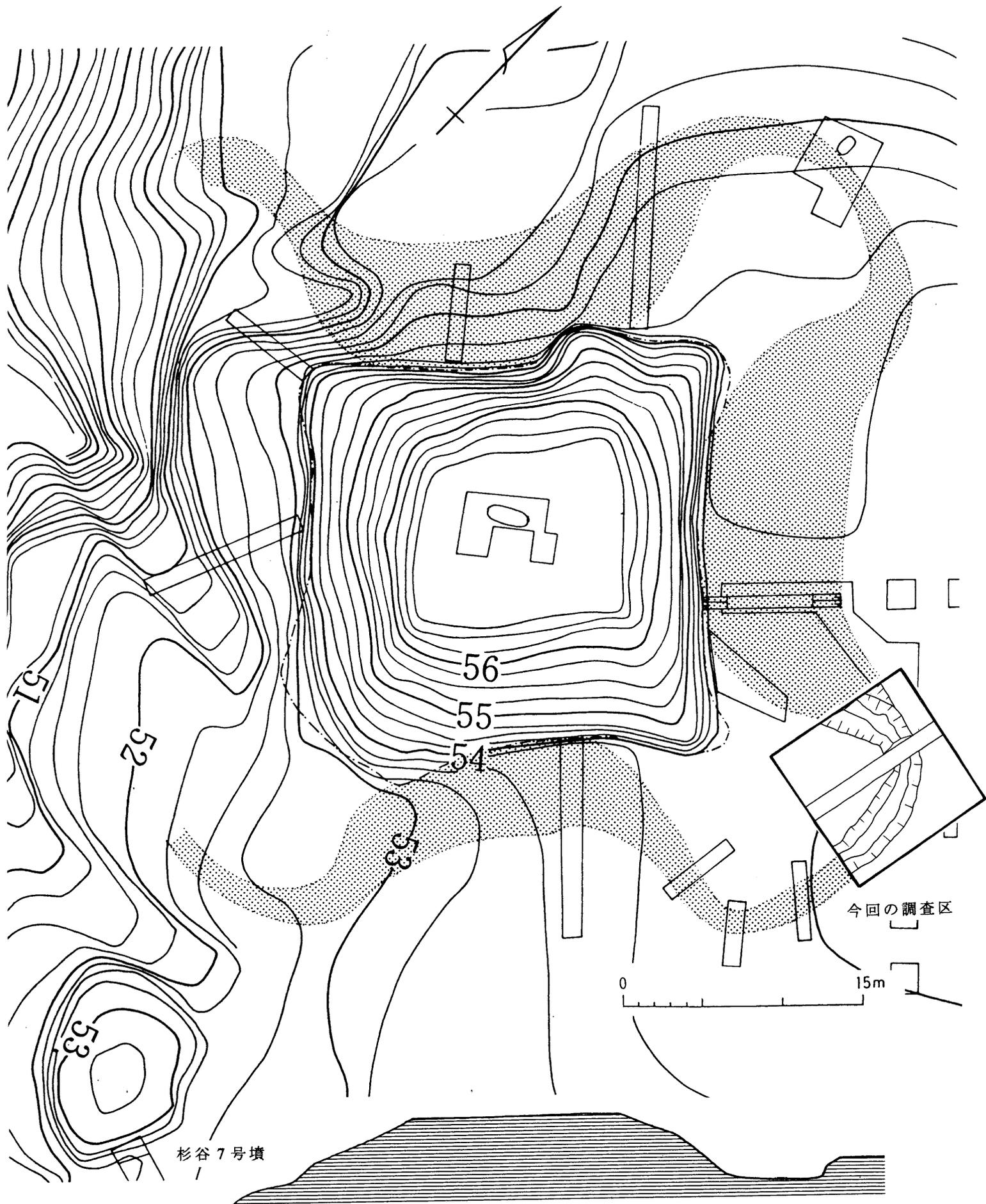
富山大学人文学部考古学研究室では、2010年から杉谷古墳群の調査を開始し、今年は調査対象を杉谷4号墳に移して、1974年の富山市教育委員会の調査以来、38年ぶりに発掘調査を実施しました。

杉谷4号墳は、現状では一辺約25m、高さ約3mの方墳状を呈しますが、前回(1974年)の調査で、隅部に長さ約10~12m、幅12~14mで、先端がバチ状に広がる突出部をもつ「四隅突出型墳丘墓」であること、また周溝を含めると、一辺が約47~48mの大きさであることなどが明らかにされました。

四隅突出型墳丘墓は、山陰地方に特有の弥生時代の墳墓で、杉谷4号墳の調査を機に、北陸地方でも福井県に8基、石川県に1基、富山県に7基が確認されています。



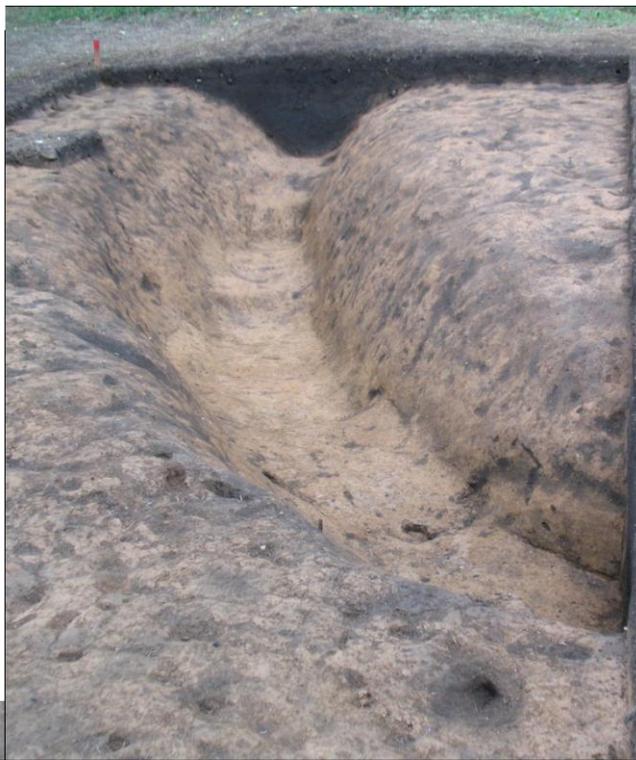
杉谷古墳群の分布図



杉谷4号墳墳丘測量図と今回の調査区（アミ部分は周溝の推定範囲）1:300  
 (『富山平野の出現期古墳』富山考古学会1999より作図)



突出部全景（東から）



突出部先端と周溝（北から）



調査区西端の周溝とその断面



出土土器（左：大形壺、上：蓋）

## 調査成果

前回の調査では上面での観察にとどまっていた東側突出部および周溝の形状と規模を確認し、あわせて築造時期を解明するための土器資料を得ることなどを目的に発掘調査を行いました。今回の調査成果は次のとおりです。

1. 突出部上面は後世の削平を受けていましたが、突出部を取り巻く周溝は良好に遺存しており、その基底部の形状などが確認されました。
2. 周溝は断面が逆台形状で、突出部先端付近で幅約 2.4m、深さ約 0.8m、調査区西端で幅約 5.0m、深さ約 1.5m を測ります。これによって、周溝は墳丘側面部側では幅も広く深さもありますが、突出部先端付近では幅も狭く浅い構造であることがわかりました。
3. 周溝基底部から墳丘上面までの高さは約 4.0m を測ります。
4. 突出部は、長さ約 10.5～11.0m と大形で幅も広く、先端がバチ状に広がる形状を呈することがあらためて確認されました。
5. 周溝内から約 700 点の土器片などが出土しました。これらのなかには、壺の蓋や口のところが幅広の段になった部分に、粘土の円盤を貼り付けて装飾を施した大形壺があります。
6. 杉谷 4 号墳は、大形で発達した突出部の形状や土器の変遷観からみて、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての時期（3 世紀頃）に築造されたものと考えられます。今後はさらに調査をすすめ、築造時期などを詳しく検討したいと思います。



作業風景

富山市杉谷 4 号墳 現地説明会資料

編集：富山大学人文学部考古学研究室

発行：平成 24 年 8 月 29 日

URL <http://www.hmt.u-toyama.ac.jp/kouko/>